

“イオン ふるさとの森”

“イオン ふるさとの森”とは？

みなさまにお買い物を楽しんでいただくイオングループのお店に作られた森、それが“イオン ふるさとの森”です。社会貢献・環境保全活動として何ができるか？を考えた結果、“森づくり”にたどり着きました。

“イオン ふるさとの森”は地域のお客さまとともにその土地由来の苗木を植えるところから始まります。地域のお客さまに見守られながら成長し、やがては豊かな生態系を育む森となるよう、工夫とこだわりをもって森づくりを進めてきました。



森づくり 3つのこだわり

その土地に本来生育する
木を植えています



モデルは地域らしさを残す森

一見同じように見える森でも、気候や土壌といった風土の違いなどにより、その地域らしさを持った森が形成されます。“イオン ふるさとの森”では、潜在自然植生（その土地で人が手を加えなければ自然に形成される植物の構成）を社寺林など古くから残る森で調べ、地域の自然環境に最も適したその土地に本来生育する木の種類を選んで植えています。

数十種類の木を混ぜ植え、
競い合わせて成長を促します



たくさんの種類の苗木を密植

一般的な緑化に比べ、たくさんの種類の苗木を高密度に植えています。密に植えることで、木々は光を求め競いあって成長し、高木層・亜高木層・低木層・草本層が組み合わさった立体的な緑を形成します。日向を好むものや日陰を好むもの、暑さに強いものや寒さに強いものなど、様々な環境の中で木が自らに適した場所で育ち、安定した森になります。

地域のお客さまが主役となり
苗木を1本ずつ植えてもらいます



植樹祭の開催

お店のオープン前には、地域のお客さまとともに小さな苗木を1本1本丁寧に、自らの手で植える植樹祭を行っています。1991年から始まった森づくりは、日本全国、そして世界各地のお客さまともに行われ、2013年には植えた木の累計が1,000万本を超え、2020年2月現在には累計1,212万本に達しています。

成長する “イオン ふるさとの森”



イオンモール津南
2018年10月撮影
2018年10月撮影

植樹直後

数十種類の苗木を混ぜ植えて、競い合わせる方法を取り入れています。



イオンモール常滑
2015年11月撮影
2018年10月撮影

3年後

木本来の成長力に任せつつ、必要な手入れを行い大切に育てていきます。



イオンモール明和
2001年6月撮影
2015年2月撮影

14年後

10年もたつと、鳥や昆虫など生きものたちが集う豊かな森になります。



イオン久居店
1992年4月撮影
2018年10月撮影

26年後

地域に根ざしたコミュニティの場となり、緑を育む心が地域の人々に広がることを願っています。

3つのこだわり以外にも、土質やマウンドの作り方など様々な工夫をこらすことにより“イオン ふるさとの森”は、長い時間をかけて立派な森へと成長します。森は、私たちの憩いの空間となるだけでなく、地域にすむ生きものたちの生活の場にもなります。つまり、その地域の生態系の一部として、大切な役割を果たしていると考えられるのです。



植栽管理の研修制度

それぞれのお店を担当者は、森の正しい管理方法や枝葉を刈り取る基準などを学ぶ“植栽管理研修”を受け、その知識と技術を日々の森づくりに役立てています。2020年5月現在、約350名の従業員が受講済みです。





森に暮らす生きものを調べています！



“イオン ふるさとの森”では、これまでに様々な生きものたちが観察されています。そこで、2019年にイオンモールとしては初めて生きもの調査を実施しました。

調査を行った場所は、1999年開店のイオンモール倉敷（岡山県）と、2018年開店のTHE OUTLETS HIROSHIMA（広島県）の2カ所。約20年が経過した森と植樹間もない森で、植物と動物を調査したところ、森の色々なことが分かってきました。



植物調査

確認した植物の種類を記録。また、一定区画内の植物の高さや太さを計測。



動物調査

確認した動物の種類や行動を記録。今回は視認しやすい鳥とチョウのみを対象とした。



調査で分かった森のこと ①植物編

ショッピングモールとともに 多様な植物が生育する森



“イオン ふるさとの森”では、様々な木を混ぜて植えていることで、一定面積あたりの植物の種類は周辺の自然林と比べても多くなっています。特に、イオンモール倉敷では、約20年前に植えた木々以外にも、自然に運ばれたタネから育ったと考えられる植物がたくさん発見されました。ショッピングモールの敷地ながら、213種類もの多様な植物が確認されています（2019年11月現在）。

自然林とも共通する 植物の種類と森の構造



イオンモール倉敷では、植えた木や開店前から元々生えていた木により、地域の自然林に似た森ができつつあります。森のある場所で調査した結果、自然林を構成する植物種の約4割と共通していました。これは市街地の一般的な緑地と比べると、とても高い割合だといえます。また、森のある場所では、高木層・亜高木層・低木層・草本層からなる自然林と似た構造も確認されました。

常緑樹の苗木が 外来植物の増加を防ぐ!?



造成直後の緑地では、草地に生える外来種がたくさん増えることが普通です。しかし、THE OUTLETS HIROSHIMAでは、地域の自然林を手本として常緑樹の苗木を高密度で植えたことや除草作業により、外来植物の侵入や増加を抑制していることが分かりました。敷地内で確認された植物全121種類のうち外来種の割合は18.2%であり、市街地に造成した敷地としてはとても低い割合だといえるでしょう。



“イオン ふるさとの森”で見られる植物



自然林にもみられる常緑高木。夏に熟す果実は、鳥たちに大人気。



別名ツブラジイ。自然林にもみられる常緑高木。高さ20mほどに大きく成長する。



自然林にもみられる常緑高木。雌株は初夏に甘酸っぱい果実をつける。



自然林にもみられる常緑高木。秋には鳥たちが食べる果実をつける。



自然林にもみられる常緑低木。秋に小さな果実をたくさんつける。



里山林に生育する落葉高木。THE OUTLETS HIROSHIMAでは、里山エリアに植えられている。



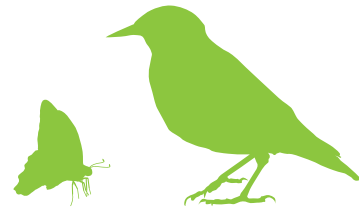
自然林にもみられる落葉高木。イオンモール倉敷では、開店前から元々生えていた大木を保全している。



在来の多年草。ツマグロヒョウモンの幼虫の食草。THE OUTLETS HIROSHIMAでは、コスミレなど数種類が生育。



調査で分かった森のこと ②鳥・チョウ編



森の成長にあわせて
様々な鳥がやってくる！

森の多様な環境は
様々なチョウのすみかに！

緑のネットワークで地域の
自然とつながっている!?

草地性の鳥のみ利用 樹林性の鳥も利用



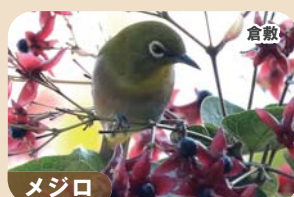
植樹間もない森では、確認された全7種類の鳥のうち樹林性の鳥はおらず、草地性の鳥が5種類確認されました。一方、植栽後約20年が経った森では、確認された全10種類の鳥のうち6種類が樹林性の鳥でした。このことは、未成熟の森には草地性の鳥が訪れ、成長した森には樹林性の鳥も訪れることを示しており、森は成長段階により様々な鳥の生息地として機能しているといえます。

“イオン ふるさとの森”には、日当たりのよい明るい場所や暗い場所、森の上層や下層、枝葉が込んだ場所や空いた場所など様々な環境があります。それぞれの環境には、そこを好むチョウたちが生息し、木々の縁に沿って飛び、枝先では日光浴して、草木に咲いた花で蜜を吸う様子が見られました。森は地域にすむチョウの移動経路や餌場、繁殖場所など様々な役割を果たしているようです。

“イオン ふるさとの森”を歩くと様々な鳥やチョウと出会います。これら飛ぶことができる動物は、この森だけにとどまらず、地域の自然と行き来しながら暮らしていると考えられます。また、これらの動物にタネや花粉を運んでもらう植物もあります。緑が少ない市街地において“イオン ふるさとの森”は、地域の自然を結ぶ緑のネットワークの一部であると想像されます。



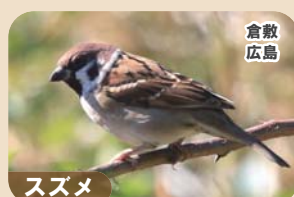
“イオン ふるさとの森”で見られる鳥やチョウ



森や木の多い公園に生息。イオンモール倉敷では、秋に果実が熟したクスノキやクサギの木（写真）に飛来していた。



森にすむキツツキの仲間。イオンモール倉敷では、大木があるエリアで餌を探す姿が見られた。



里にすむ身近な鳥であるが、都市部では減少傾向。“イオン ふるさとの森”では明るい林を餌場や隠れ場として利用。



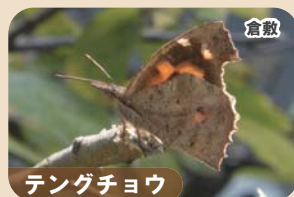
秋から冬の間に日本で過ごす渡り鳥。“イオン ふるさとの森”では、林縁やまだ木が小さく明るい場所を好む。



ハトと同じやや大きいタカの仲間。THE OUTLETS HIROSHIMAの森の上空で、獲物を探して飛んでいた。



森や木の多い公園に生息。幼虫はエノキの葉を食べる。イオンモール倉敷ではエノキの大木で見つかった。



頭が天狗の鼻のように伸びていることが名の由来。イオンモール倉敷では、秋にやや暗い森の中でたくさん見られた。



草地にすむヒョウ柄のチョウ。幼虫はスミレ類の葉を食べる。“イオン ふるさとの森”では、植栽の間の草を利用。



“イオン ふるさとの森”を観察してみてください！

今回生きもの調査を行ったことで、森には多様な動植物が暮らしていること、地域の生態系の一部として大切な役割を果たしていることを確認できました。そして、森は時とともに変化し、地域の自然と一体となって唯一無二の存在へと成長していくことが伺えました。

みなさまもお近くのイオンモールにお越しの際には“イオン ふるさとの森”を観察してみてください。その場所ならではの動植物たちがいることを感じていただければ嬉しい限りです。これからも地域のみなさまに愛される森づくりを行っていきたいと思います。

